

Uniform⁺ Plus

4

2024 APR
ユニフォームプラス
Vol.196



職場の一体感を高めるユニフォーム



業界
み・きき

モチベーションと イメージの向上を目指して

一般財団法人日本老人福祉財団 佐倉〈ゆうゆうの里〉 千葉県佐倉市

全国7拠点で介護付き有料老人ホーム「〈ゆうゆうの里〉」を運営する一般財団法人日本老人福祉財団。介護保険法ができる25年前から高齢化問題に取り組んでおり、昨年12月1日に創立50周年を迎えた。記念事業の一環で介護部門の職員約620人のユニフォームを更新するとともに、SDGs(持続可能な開発目標)推進として、旧ユニフォームのリサイクルとアップサイクルに着手している。

高齢者コミュニティを展開

城下町として発展してきた歴史の面影と、緑豊かな自然に囲まれた千葉県佐倉市。その中心部に程近い丘陵地に建つのが同財団6カ所目の施設として1988年に開所した「佐倉〈ゆうゆうの里〉」だ。3〜5階建て鉄筋コンクリート造の一般住居用建物がゆったりと建ち並び広大な敷地は約3万4千平方メートル。総戸数379戸で、ほぼ満室の状態が続いていると語る。

現在、入居時の平均年齢73.2歳で、自立入居者比率は約7割。自立している高齢者からの人気の高さを示す。核となる介護サービスは、自立期から、要支援、要介護、終末期まで心身の変化に応じて提供。日常生活の質を高める多様なアクティビティーに加え、生涯にわたる利用権方式で追加入居金が必要ないことや、充実した医療支援体制などが評価されているようだ。

財団の基本理念「豊かな福祉社会の実現を目指す」に基づいて、職員の人間性にも重点を置く。その象徴がケアスピリットに掲げる「私にとってあなたはとても大切な人です」「あなたは、入居者やその家族に限らず、業務を通じて関わる全ての人たちを対象としている」。

50周年記念事業の二環として

これまで介護職員用ユニフォームは、摩耗などによる劣化に対処するタイミングで更新してきた。今回の更新は、そのタイミングが50周年を迎える2023年12月に近い見通しだったことから、記念事業として位置付けて実施。さらに職員のモチベーションや、入居者、地域住民、採用活動へのイメージの向上を改めて図る機会になるとして、ユニフォーム検討チームを組んで本腰を入れて取り組むことになった。

検討チームの発足は22年4月。本部のサービス支援部、調査企画室の職員計4人と、各拠点施設の制服担当者で構成。検討作業は「さわやかさ」「誠実さ」「清潔さ」「安心」「幸せ」の5つを新ユニフォームのコンセプトとし始動した。続いて、当時着用していたユニフォームの課題を抽出するため、着用している職員に加え、非着用の職員や入居者を含めた約100人を対象に、色や形、機能、印象などについてのアンケートを実施した。

特に改善要望が多かった点は暑さ対策と透け防止であることが分かった。高齢者が多く生活していることから施設内の室温は季節を問わず常に暖かい状態に保たれている。そのため、介助作業を行う介護職員からは、通気性のあるユ



カウンターでの案内も業務の一環



ピアノを弾いて入居者に楽しんでもらうことも



鮮やかなコーラルピンクは入居者にも好評



エアスルーポロは腰回りを覆うロング丈(右)と標準丈の丈違いを用意

ニフォームを求める声とともに、相反する機能でもある透け防止に対する配慮への要望も挙がった。結果を受けた検討チームは早速、複数のユニフォームメーカーの商品カタログを集め、機能性やデザインなどを比較。その中から優位だった2社のポロシャツとパンツのサ

ンプルを取り寄せた。サンプルは、実際に現場で働く職員に着用してもらい、着心地や動きやすさ、見た目などをモニタリングした。

2社の商品は甲乙つけ難かったが、検討を重ねた上で同年10月下旬にカーシーカシマ(栃木県佐野市)のポロシャツ「エアスルーポロ」シリーズと、ニットパンツを選んだ。決め手となったのは、ポロシャツ以外の介護向け関連ウェアのラインアップが充実している点だった。同財団の施設では自立した入居者が多いことから介護職員が屋外で付き添いを行うことも多く、長袖シャツやカーディガン、エプロンといった他のウェア類も支給しているからだ。検討チームメンバーでサービス支援部の安藤真穂主任は「同メーカーの商品でそろえることで、法人のイメージを統一でき、ユニフォーム管理も効率化できると判断した」と振り返る。

通気性と動きやすさで高評価

今回導入したエアスルーポロは、通気性の高いポリエステル100%の鹿の子ニットを使用しており、汗をかいてもベトつかない肌触りが特長。しつかりとした襟回りと明るいカラーラインアップによって、老若男女問わず着こなし感を醸し出せるデザインに仕上がっている。カラーは6色展開の中

から暖色と寒色のバランスを考慮して4色をピックアップ、丈は標準丈とロング丈の2種を用意した。「職員の満足度向上につながるよう個人の好みで選択できる幅を広げた」と安藤主任。パンツは、女性職員向けのニットブーツカットパンツと、男女兼用のニットストレートパンツの導入を決めた。

新ユニフォームは50周年記念日の昨年12月1日から着用を開始。介護職員の小竹颯さんは、スターリーナイト色とクリアアスカイ色の標準丈を2点ずつ選んだ。「通気性、ストレッチ性共に改善されている。標準丈は見栄えの良さが気に入った」と感想を語る。同僚の渡辺光彩さんはスターリーナイトの標準丈と、コラルピンクの標準、ロング丈2種を選択。「好みの色と丈が選べるのはうれしい。パンツと共に動きやすくて快適」と話す。クリアアスカイのロング丈と、スターリーナイトの標準、ロング丈を選んだ鶴岡真弥さんは「ロング丈は両腰部分にあるポケットが大きく使い勝手が良い」と満足気だ。

今回、2千点のエアスルーポロを導入したが、このうちロング丈は500点だった。標準丈は見栄えや安定的なデザイン、胸ポケットに対する評価が高い。一方、ロング丈は両腰ポケットや腰回りを隠しやすいといったメリットが受け入れら



DATA

一般財団法人日本老人福祉財団

住所 東京都中央区日本橋堀留町1-7-7
 設立 1973年に財団法人として厚生大臣認可
 事業内容 全国に7拠点ある介護付有料老人ホーム「くゆうゆうの里」の運営の他、生きがい・健康づくり事業、研修事業、調査・研究事業などを行う。
 従業員数 1176人(2024年2月現在)



暖かな日差しが降り注ぐ施設内



佐倉「くゆうゆうの里」の施設模型



ユニフォーム検討チームの安藤主任(右)と冨田主任

左袖に付けた独自の織りネームは、組織の一体感醸成を目指すために検討チームがこだわったポイントでもある。ユニフォーム更新によつてどのような効果が生みだされたのか。1年後にもう一度検証する方針だ。

SDGs推進への取り組み

介護、医療施設においてもSDGs推進の動きが高まっている。同財団では今回初の試みとして、旧ユニフォーム約2千点のサーマルリサイクルとアップサイクルに取り組み。回収窓口はカーシーカシマが担う。

旧ユニフォーム回収分量の約9割はプラスチック資源開発工場で二次処理してペレット化した後、北海道苫小牧市内にある発電所の発電燃料としてサーマルリサイクルする。残り1割分は、ユニフォームの色ごとに分別した後に細かく粉砕し、圧縮成形して繊維再生ボードにアップサイクルする。再生ボードからは100個のがきフレームの作製が可能となる見込み。リサイクル案を企画した検討会メンバーの冨田明優主任は「各拠点施設の共用部に飾ることで、消費するだけでなく、環境にも貢献する」とSDGs推進の意識付けができれば」と、有効活用を期待を寄せていた。